

令和6年度公共事業再評価調書

担当課名

河川海岸整備課

番号	11																								
事業名	河川改修事業			事業主体	静岡県																				
箇所名	にきゅうかせんかつまたがわ 二級河川勝間田川			関係市町	牧之原市																				
事業採択年度	平成 27 年度		計画期間	平成27年度 ~ 令和11年度																					
用地着手年度	平成 27 年度		工事着手年度	平成 27 年度																					
再評価理由※	再評価実施後5年間が経過した時点で継続中又は未着工																								
全体事業費	百万円 1,099	投資状況 (百万円)	~R4年度 613	R5年度 94	R6年度見込 102																				
事業概要	<p>(1) 事業目的 二級河川勝間田川は、整備計画区間において河道断面が狭小になっており、洪水を十分に流下させることが困難な状況にある。このため、同区間の河道改修を実施し、3年に1回程度発生すると予想される規模の洪水に対応できる河道断面を確保することで浸水被害の軽減を図る。</p> <p>(2) 事業内容 施工延長： 2,700 m 計画河道幅： 約48 m (0.4k~1.4k地点) 築堤工： 9,000 m³ 掘削工： 64,100 m³ 護岸工： 1,200 m 道路橋： 1 橋</p>																								
【視点1】 事業の必要性	<p>(1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化 勝間田川流域では平成10年9月台風5号(床上2戸、床下4戸)や平成16年11月洪水(床上2戸、床下2戸)など、度々洪水被害が発生している。河川改修の進捗に伴い河川水位の低下など一定の効果が発現しているものの、依然として河川の治水安全度が低い。流域住民からは洪水被害の解消を求める強い要望があることから、早期に河川改修を進め治水安全度を向上させる必要がある。</p> <p>(2) 事業の投資効果 ○費用便益分析結果 (令和 6 年度時点)</p> <table border="1"> <tr> <th>B/C (i=4%)</th> <th>参考:B/C (i=2%)</th> <th>参考:B/C (i=1%)</th> <th>EIRR</th> </tr> <tr> <td>1.3</td> <td>2.0</td> <td>2.6</td> <td>4.9%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・総便益 (B) 4.8 億円 (便益: 4.4億円、残存価値: 0.4億円) ・総費用 (C) 3.8 億円 (事業費: 3.4億円、維持管理費: 0.4億円) <p>○見込まれる効果(定性的な効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排水不良の解消等に伴う内水浸水被害の軽減 ・親水性の向上および動植物の生育環境向上 ・企業誘致・活動の支援 <p>(3) 事業の進捗状況 (令和 6 年度見込み)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>進捗率</th> <th>内 訳</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業費</td> <td>73.6%</td> <td>(809 百万円 / 1,099 百万円)</td> </tr> <tr> <td>事業量</td> <td>74.1%</td> <td>(2,000 m / 2,700 m)</td> </tr> <tr> <td>用地取得</td> <td>0.0%</td> <td>(0 m² / 1,000 m²)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">評価 継続が妥当</p>					B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR	1.3	2.0	2.6	4.9%	区分	進捗率	内 訳	事業費	73.6%	(809 百万円 / 1,099 百万円)	事業量	74.1%	(2,000 m / 2,700 m)	用地取得	0.0%	(0 m ² / 1,000 m ²)
B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR																						
1.3	2.0	2.6	4.9%																						
区分	進捗率	内 訳																							
事業費	73.6%	(809 百万円 / 1,099 百万円)																							
事業量	74.1%	(2,000 m / 2,700 m)																							
用地取得	0.0%	(0 m ² / 1,000 m ²)																							
【視点2】 今後の事業の進捗の見込み	<p>令和6年度末までに戸塚橋下流までの河道改修が完了予定であり、戸塚橋より上流区間についても順次工事に着手していく。また、後川橋(1.2km)の改築に着手できるよう、計画的に関係者協議を実施し、早期完成を目指す。</p> <p style="text-align: right;">評価 継続が妥当</p>																								
【視点3】 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性	<p>掘削による発生残土を養浜材や海岸の津波対策等の他事業に流用して残土の有効性を図るとともに、地域住民との協働による維持・管理コスト等の縮減に努める。</p>																								
対応方針(案)	<p>(1) 対応方針(案) 本事業を 【 継続 】 する。</p> <p>(2) 理由 本事業は、勝間田川流域の治水安全度の向上により浸水被害の軽減を図るもので、事業も順調に進捗している。さらに、B/Cが1.3であり、安全で安心して暮らせる住みよいまちづくりに寄与することから、事業を継続して早期完成を図る。</p>																								

費用便益比算出説明書

二級河川勝間田川

(「治水経済調査マニュアル(案)」国土交通省 水管理・国土保全局 令和6年4月)

総括表

総便益 B	[事業を実施しない場合の被害額]－[事業を実施した場合の被害額] ＋[施設の残存価値]	478百万円
総費用 C	[建設費]＋[評価期間内に必要な維持管理費]	380百万円
B / C		1.26

総便益

○事業の有無による被害額の差分
年平均被害軽減期待額を社会的割引率4%、評価対象期間50年(残整備期間2年＋50年)とし、現在価値化する。

○施設等の残存価値
評価期間末における施設等の残存価値を社会的割引率4%で現在価値化する。

総便益

$$\begin{aligned}
 B &= \sum \text{年平均被害軽減期待額} / (1+0.04)^n + \text{評価期間末残存価値} / (1+0.04)^n \\
 &= 435.3\text{百万円} + 42.6\text{百万円} \\
 &= 477.8\text{百万円}
 \end{aligned}$$

※ 被害額は洪水による家屋、事業所、農作物、公共土木施設などの被害額と営業停止損失、家庭・事業所における応急対策費用である。

※ 年平均被害軽減期待額は洪水の生起確率を生起確率別被害軽減額に乘じ、計画対象規模まで累計することにより算出する。

※ 整備期間中の便益は、事業費に比例して発生するものとする。

総費用

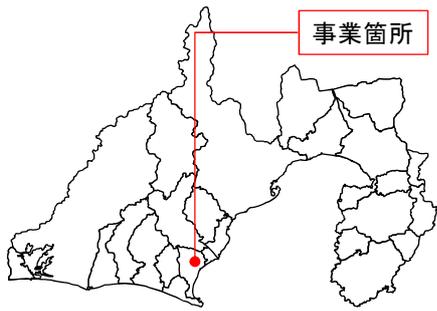
○事業建設費
各年の事業建設費を社会的割引率4%で現在価値化する。

○評価期間内に必要な維持管理費
各年の維持管理費を社会的割引率4%で現在価値化する。
建設費の0.5%/年、評価対象期間:50年(残整備期間2年＋50年)

総費用

$$\begin{aligned}
 C &= \sum \text{各年事業建設費} / (1+0.04)^n + \sum \text{年間維持管理費} / (1+0.04)^n \\
 &= 341.3\text{百万円} + 38.3\text{百万円} \\
 &= 379.6\text{百万円}
 \end{aligned}$$

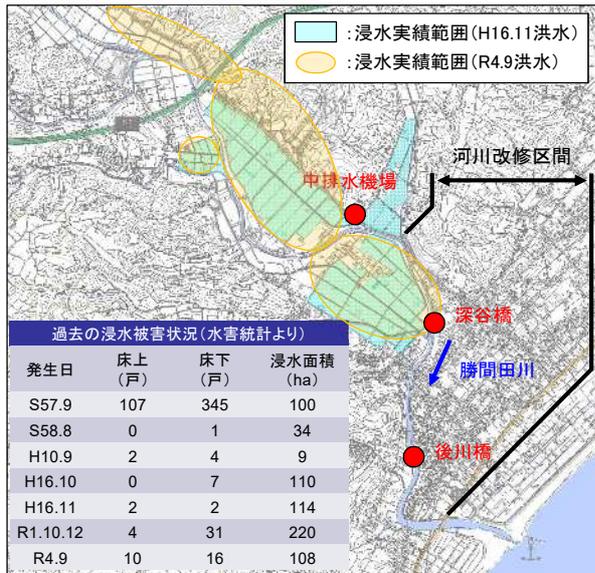
1. 事業箇所位置図



二級河川勝間田川	
流域面積	約36.4km ²
幹線流路延長	約14.6km

2. 事業概要

詳細位置図



H16.11洪水



写1: 中排水機場(3.4km付近)

R4.9洪水



写2: 深谷橋(2.4km付近)

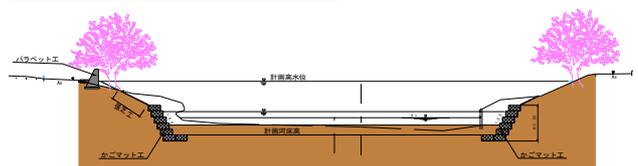
事業目的

年超過確率1/3の規模(56mm/h、209mm/24h)の洪水(1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/3である)を安全に流下させ、浸水被害を軽減する。

事業内容

- ・ 計画期間 平成27年～令和8年
- ・ 事業内容
 - 施工延長 2,700m
 - 築堤工 9,000m³
 - 掘削工 64,100m³
 - 護岸工 1,200m
 - 道路橋 1橋
- ・ 全体事業費 10.99億円

横断図等



2. 事業概要

前回からの変更点・理由

区分	前回(R元)	今回(R6)	主な変更理由
①計画期間	H27～R8	H27～R11 (+3年)	・処分単価の増加により、掘削土量が減となったことに伴う、進捗の遅延
②全体事業費	820百万円	1099百万円 (+279)	・当初想定に対して建設資材や残土処分費等の単価が上がったため。

3. 事業を巡る社会情勢等の変化

- ▶ 勝間田川は、下流区域(細江地区・静波地区)に人口が集中しており、水害の危険性が高くなっていることが治水面上の課題となっている。
- ▶ 近年、人口は減少傾向にある一方で、世帯数は増加傾向となっている。



勝間田川流域の水害リスクは高く
治水安全度の早期向上が望まれる

4. 事業の投資効果（費用便益比）

総便益(B) = 4.78 (億円)

➤被害軽減期待額 4.35 (億円)

※洪水による家屋、事業所、農作物、公共土木施設等の被害額と営業停止損失、
家屋・事業所における応急対策費用

➤残存価値 0.43 (億円)

総費用(C) = 3.80(億円)

➤建設費(現在価値化) 3.41(億円)

➤維持管理費(現在価値化) 0.38(億円)

※令和6年換算価値

※文献(マニュアル):「治水経済マニュアル(案)」

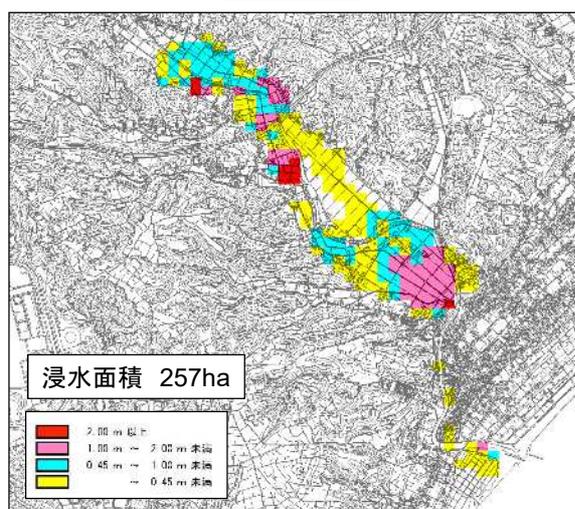
(国土交通省水管理・国土保全局、R6.4)

費用便益比(B/C) = 1.26

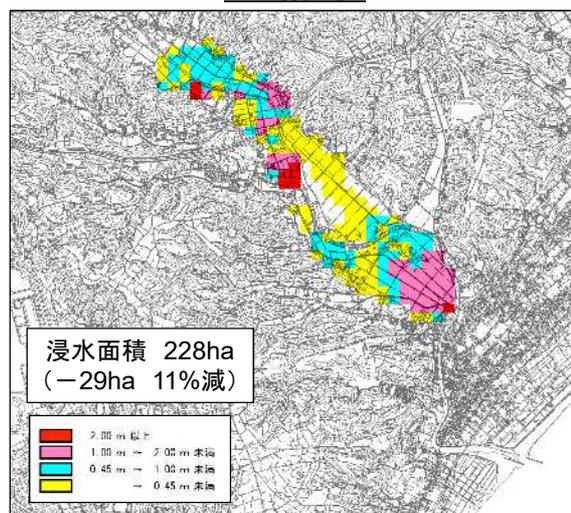
5. 事業の投資効果

【整備目標規模(年超過確率1/3)洪水による氾濫シミュレーション結果】

整備前



整備後



本事業を実施することにより
勝間田川流域の浸水地域における浸水被害が軽減される

6. 事業の進捗状況 (令和6年度末見込み)



7. 今後の事業の進捗の見込み

- 令和6年度末までに戸塚橋下流までの河道改修が完了予定であり、戸塚橋より上流区間についても順次工事に着手していく。
- 後川橋の改築に着手できるよう、計画的に関係者協議を実施する。

8. 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性

- 掘削による発生残土を養浜材や海岸の津波対策等の他事業に流用して残土の有効性を図るとともに、地域住民との協働による維持・管理コスト等の縮減に努める。

9. 対応方針（案）

- 本事業は、勝間田川流域の治水安全度の向上により浸水被害の軽減を図るもので、事業も順調に進捗している。
- B/Cが1.3であり、安全で安心して暮らせる住みよいまちづくりに寄与することから、事業を継続して早期完成を図る。



早期の浸水被害解消のため
事業を継続する